

学校選択重視項目の変化

男女、文理で進学先を選択する際の重視項目は異なる キャンパスの価値や教育方針、カリキュラムを重視するように



●重視項目の変遷（全体関東・東海・関西）

学部・学科、就職に有利、校風や雰囲気が“鉄板”の重視3項目

2009年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	80.5
2	就職に有利である	55.0
3	校風や雰囲気が良い	52.9
4	自分の興味や可能性が上げられる	48.5
5	自宅から通える	47.0
6	学生生活が楽しめる	46.0
7	交通の便が良い	38.7
8	資格取得に有利である	37.9
8	卒業後に社会で活躍できる	37.9
10	伝統や実績がある	36.6

2022年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	77.6
2	就職に有利である	51.4
3	校風や雰囲気が良い	47.8
4	自宅から通える	46.5
5	自分の興味や可能性が上げられる	45.2
6	資格取得に有利である	37.2
7	学生生活が楽しめる	36.8
8	交通の便が良い	36.0
9	キャンパスがきれいである	35.0
10	教育方針・カリキュラムが魅力的である	34.9

2009年にはなく2022年に10位以内に入った項目

全体、男女、文理という順番で、進学する際に重視する項目の違いを見てみよう。全体を見てみると、上位3項目「学びたい学部・学科がある」「就職に有利である」「校風や雰囲気が良い」に変化はない。この3項目は、高校生が進学先を選ぶ際に、重視するいわゆる“鉄板”項目である。「自宅から通える」「資格取得に有利である」の順位が上がった一方で、「交通の便が良い」「学生生活が楽しめる」が順位を下げている。特にコロナ禍において通学以外であまり出かけることができなく、学生生活を楽しむという感覚が薄くなっているのではないかと。10位以内に、新たに「キャンパスがきれいである」「教育方針・カリキュラムが魅力的である」が入ってきている。オンラインが進むことから、改めて人が集まるキャンパスという場所の価値や教育方針・カリキュラムに注目が集まっているように思える。

男女別を見ると、トップ項目は「学びたい学部・学科があ

る」で共通だが、2位は男子が「就職に有利」、女子は「校風や雰囲気が良い」で、2009年から変化していない。男女の差異に注目して重視項目をまとめると、男子は「自宅から通える、就職に有利な、有名な大学で、将来の選択肢を増やしたい」となる。男子は、1位の「学びたい学部・学科がある」が、以前から女子と比べて約10ポイント低いのが特徴で、男子のほうが大学名で選んでいる可能性は高いと考えられる。女子は「自宅から通える、教育方針・カリキュラムが魅力的な大学で、資格取得したい」となる。

文理別を見ると、1位から5位まではほぼ変わらない。違いを一言で言うと、文系が「きれいなキャンパスで、教育方針・カリキュラムが魅力的な大学で、学生生活を楽しみながら、将来の選択肢を増やしたい」。理系は「学習設備や環境が整った、勉強するのに良い環境の大学で、学費を抑えつつ、資格取得したい」ということになるだろう。

高校生が進学する際に重視することは何か。

この項目を調査し始めた2009年と2022年の比較から、高校生の志向の変化を見ていきたい。

表は、関東、東海、関西全てのエリアを合計した数字を、回答の多い順に上位10項目を並べたものである。

●重視項目の変遷（男女）



男子

自宅から通える、就職に有利な、有名大学で将来の選択肢を増やしたい

2009年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	74.9
2	就職に有利である	52.8
3	自分の興味や可能性が上げられる	44.8
4	校風や雰囲気が良い	43.5
5	自宅から通える	41.4
6	学生生活が楽しめる	38.1
7	卒業後に社会で活躍できる	37.5
8	伝統や実績がある	36.0
9	学費が高くない	35.4
10	交通の便が良い	33.7

2022年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	72.6
2	就職に有利である	49.2
3	自宅から通える	41.3
4	自分の興味や可能性が上げられる	41.1
5	校風や雰囲気が良い	39.1
6	有名である	34.5
7	将来の選択肢が増える	32.1
8	交通の便が良い	31.5
9	卒業後に社会で活躍できる	31.3
10	学生生活が楽しめる	30.7

2009年にはなく2022年に10位以内に入った項目



女子

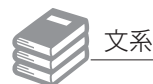
自宅から通える、教育方針・カリキュラムが魅力的な大学で、資格取得したい

2009年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	86.8
2	校風や雰囲気が良い	63.6
3	就職に有利である	57.5
4	学生生活が楽しめる	54.9
5	自宅から通える	53.5
6	自分の興味や可能性が上げられる	52.7
7	資格取得に有利である	45.9
8	交通の便が良い	44.5
9	キャンパスがきれいである	42.6
10	学習設備や環境が整っている	42.5

2022年		
順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	82.9
2	校風や雰囲気が良い	56.9
3	就職に有利である	54.0
4	自宅から通える	52.3
5	自分の興味や可能性が上げられる	49.5
6	資格取得に有利である	45.9
7	学生生活が楽しめる	43.3
8	キャンパスがきれいである	42.0
9	交通の便が良い	40.8
10	教育方針・カリキュラムが魅力的である	39.9

2009年にはなく2022年に10位以内に入った項目

●重視項目の変遷（文理）

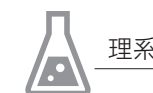


文系

キャンパスがきれいな、教育方針が魅力的な大学で、学生生活を楽しみながら、将来の選択肢を増やしたい

2009年			2022年		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	80.9	1	学びたい学部・学科がある	77.2
2	校風や雰囲気が良い	58.5	2	校風や雰囲気が良い	53.1
3	就職に有利である	57.0	3	就職に有利である	52.6
4	自分の興味や可能性が上げられる	50.4	4	自宅から通える	48.7
5	学生生活が楽しめる	49.3	4	自分の興味や可能性が上げられる	48.7
6	自宅から通える	49.2	6	学生生活が楽しめる	40.6
7	交通の便が良い	41.1	7	キャンパスがきれいだである	39.3
8	伝統や実績がある	39.9	8	教育方針・カリキュラムが魅力的である	38.2
9	卒業後に社会で活躍できる	39.2	9	交通の便が良い	37.7
10	キャンパスがきれいだである	38.2	10	将来の選択肢が増える	37.2

2009年にはなく2022年に10位以内に入った項目



理系

学習設備が整った、環境の良い大学、学費を抑えつつ、資格取得したい

2009年			2022年		
順位	項目	(%)	順位	項目	(%)
1	学びたい学部・学科がある	80.9	1	学びたい学部・学科がある	79.0
2	就職に有利である	52.5	2	就職に有利である	49.4
3	自分の興味や可能性が上げられる	45.6	3	自宅から通える	44.6
4	校風や雰囲気が良い	44.6	4	校風や雰囲気が良い	42.2
5	自宅から通える	43.2	5	自分の興味や可能性が上げられる	41.9
6	学費が高くない	41.6	6	資格取得に有利である	36.5
7	学生生活が楽しめる	40.6	7	勉強するのに良い環境である	35.4
8	学習設備や環境が整っている	37.8	8	学費が高くない	35.2
9	勉強するのに良い環境である	36.7	9	交通の便が良い	34.1
10	資格取得に有利である	36.6	10	学習設備や環境が整っている	33.9

2009年にはなく2022年に10位以内に入った項目



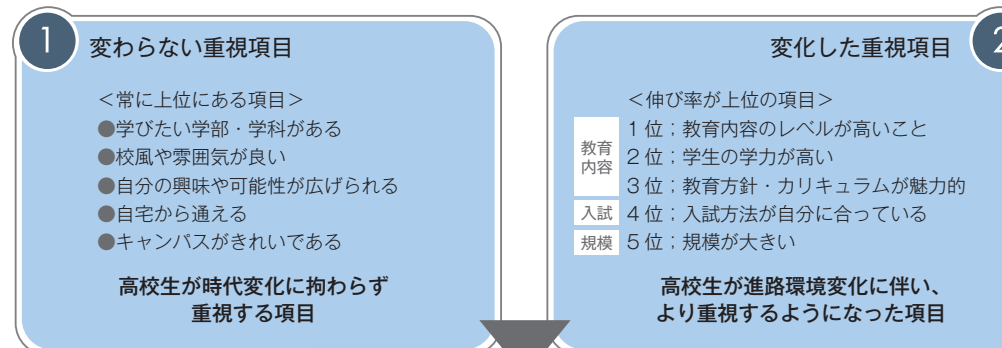
学びの質や内容、自分に合った入試方法を重視する高校生が増加

進学先を検討する際に重視する項目を、過去14年のスコア変動で見ると、時代に拘わらず重視する項目と、時代変化によって重視しつつある項目があることが分かった。時代に拘わらず重視する項目は、「学びたい学部・学科がある」「校風や雰囲気が良い」「自分の興味や可能性が上げられる」「自宅から通える」「キャンパスがきれいだである」といった、いわば「鉄板」項目である。一方、スコア変動で数値の伸びを見ると、上昇率の高い項目＝重視しつつある項目がある。伸び率が高かったのは「教育内容のレベルが高いこと」「学生の学力が高い」「教育方針・カリキュラムが魅力的」の順で、「教育の質や内容」に関するものである。続いて「入試方法が自分に合っている」「規模が大きい」の順となっている。定員厳格化が落ち着き、規模の大きい難関大学にも入りやすくなったこと、多様な入試制度の中から自分に合ったものを選べるようになってきたことが要因ではないだろうか。

こうした高校生の重視項目の変化を理解するために、P28～29を参照いただきたい。これは、高校生が各大学に志望した理由として書いてもらった自由回答をテキストマイニングに掛け、キーワードを抽出したものである。これを見ると、自身を取り巻く環境の変化に、高校生が敏感に反応していることが分かる。2015年には「学部」「就職」「有利」という言葉が中心にあった。2019年は大学入学共通テストの導入が決まり、英語4技能や記述式の活用が話題になる一方、定員厳格化により大手私立大学の難化が進んだ年である。ここでは、「入試」という言葉が圧倒的に多く記されていた。2020年はコロナ禍での休校となる一方、定員厳格化が落ち着きを見せた年である。「学部」が復活し「学ぶ」という言葉が増えた。2022年になるとコロナ禍が定着した中「学ぶ」が中心になり、「通える」「通いやすい」という言葉が多く記されるようになってきている。¹⁾（文／小林 浩）

高校生が重視する項目の変化とその理由

2009年～2022年のスコア変動から見た2つのファインディングス



変わらず重視される項目がある一方で、「学びの内容」「自分に合った入試方法」を重視する高校生が徐々に増えてきている

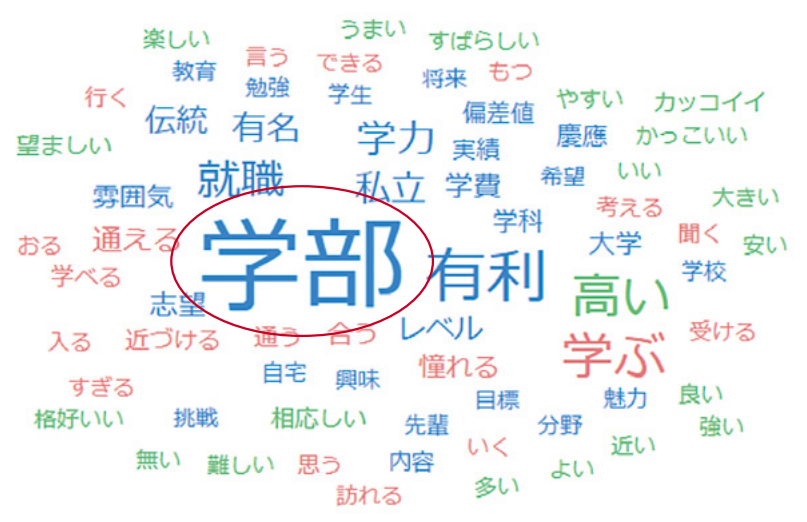
※検証条件：関東、関西、東海全ての重視項目
 ※「全体」「男子」「女子」「文系」「理系」全てのクロス軸で①変わらない②変わるで項目抽出
 ※1:②は、各項目のCAGRを算出し、伸び率3%以上の項目を抽出した

高校生が気になるキーワードをテキストマイニングしてみた！

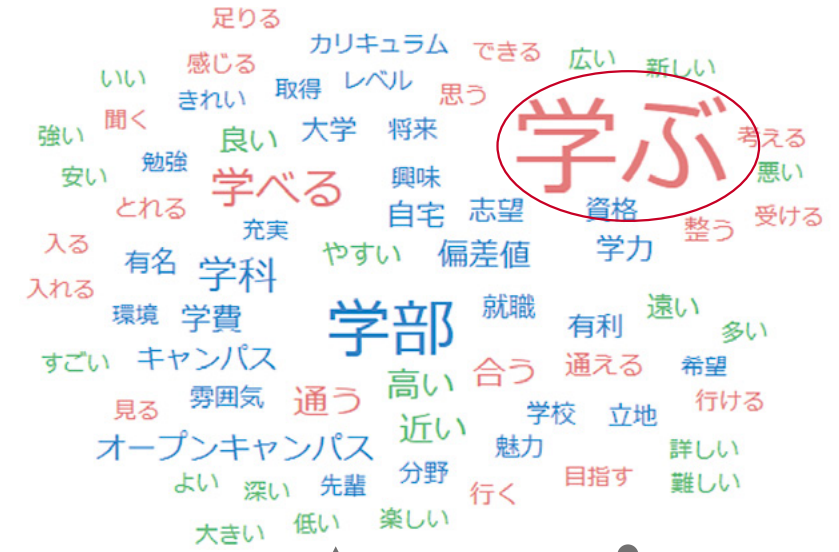
コロナ禍で改めて「学ぶ」「学べる」への関心が高まっているのではないか

検証条件：関東、関西、東海の志願したい大学に対する理由の自由回答全てより抽出
テキストマイニング：ワードクラウド文章中で出現頻度が高い単語を複数選び出し、その頻度に応じた大きさと色で図示する手法
スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示。色が品詞に対応。

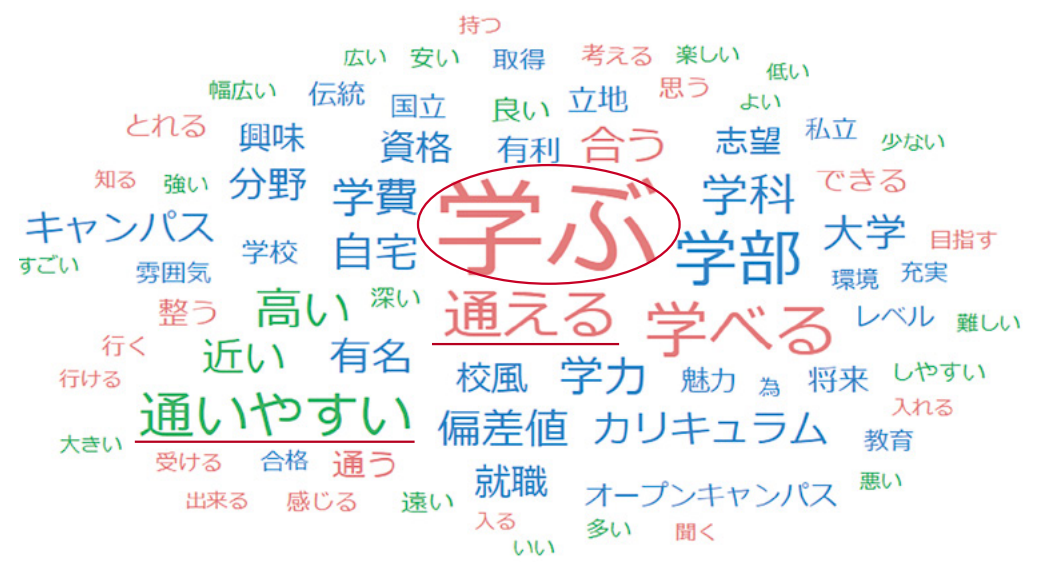
● 2015年
(定員厳格化前)



● 2020年
(コロナ休校中)



● 2022年



● 4年

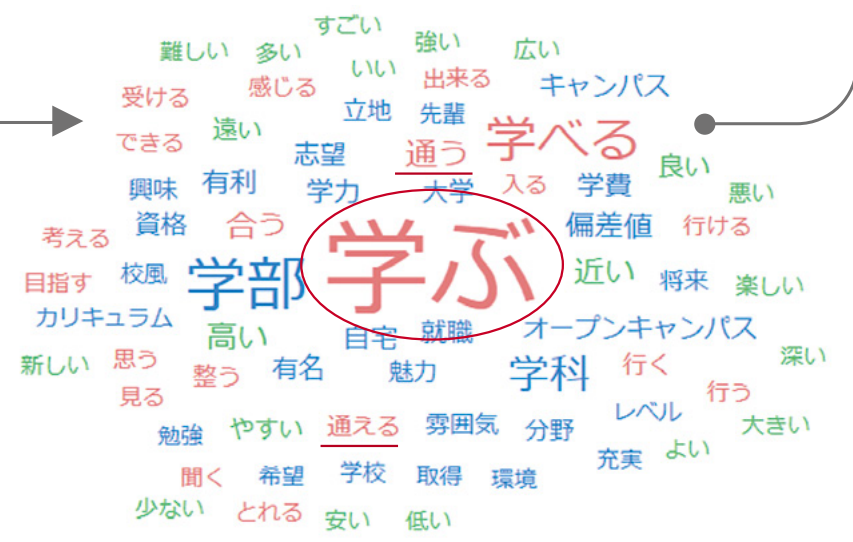
● 2019年
(入試改革議論&定員厳格化影響のまっただなか)



● 1年

● 1年

● 2021年



● 1年